

平成二十五年 度

九州大学法科大学院入学試験問題

論文試験

(注意)

- 一 本試験問題は指示があるまで開かないこと。
- 二 本試験問題は(この表紙と白紙を除き)八頁、解答紙は二枚である。「始め」の合図があつたら、それぞれ確認すること。
- 三 解答文は横書きとし、所定の解答欄に記入すること。
- 四 論文試験の筆記具は、B又はHBの鉛筆又はシャープペンシルを使用することとし、それに従わない答案は無効とする。
- 五 ラインマーカー及び色鉛筆の使用は、問題検討のために、問題用紙及び答案構成用の下書き用に限る許可する。

第一問 次の文章をよく読んで、問(1)・(2)に答えなさい。

【出典】川崎修「自由についての試論」立教法学五二号（一九九九年）

問(1) 古代ギリシアにおける自由はどのようなものであると筆者は考えているか。傍線部(1)における「自由とポリスとの不可分の関係」の具体的内容を示しつつ、一五〇字以内で説明しなさい。

配点三〇点

問(2) 傍線部(2)における自由観の「転換」とは何か。また、そのような転換が生じ理由について筆者はどのように考えているか。五五〇字以上、六〇〇字以内で説明しなさい。

配点一〇〇点

第二問 次の文章をよく読んで問(1)・(2)に答えなさい。

【出典】大津真幸『近代日本思想の肖像』

（講談社、二〇一二年） 一〇八一―一四頁

問(1) 傍線部(1)に「日本ファシズムの内には、……丸山理論の視線、が及ばない部分があるのではないか」とある。この丸山理論の視線が及ばない部分とは、どのようなものか、この問題文中の記述を参考に、例を挙げて説明しなさい。（五〇字以上、一〇〇字以内）

配点二〇点

問(2) 傍線部(2)「日本ファシズムのある部分に、丸山の理論的な解析の光がどうしようもなくあたらないのは、なぜだろうか？」とある。この疑問について、この文章の筆者（大津真幸）が考えている理由を、この問題文中の記述を参考にして説明しなさい。（三〇〇字以上、四〇〇字以内）

配点一〇〇点